

2年目に入った 新型コロナウイルス感染症拡大 —幼い命を感染症から守るために—

水も石けんも食料も不足。途上国の子どもたちが危機に

世界各地で多くの感染者と犠牲者を出してなお拡大を続ける新型コロナウイルス。その恐るべき感染の猛威が、途上国の子どもたちの命と未来に深刻な影響をもたらしています。紛争や自然災害、気候変動によって以前から人道危機に直面していた国や、難民キャンプなどの密集した場所において、急速な拡大の懸念が高まっています。



子どもたちの多くは過密する貧困地域で暮らしていて、病気予防に必須の手洗い用水や石鹸も手に入りません。ひとたび感染が広がれば甚大な被害を引き起こされることは必至です。

幼い命を感染症の影響から守るために

コロナ危機の下、ユニセフは急速に拡大するパンデミックから子どもたちを守りながら、母子健康サービスや栄養治療など従来の支援活動も継続して行う責務を担っています。支援の対象国は150か国を超え、ユニセフの歴史のなかでも最も大規模な支援活動が、日々



ユニセフは、新型コロナウイルスの感染予防に関する正確な情報を提供するための啓発活動を展開。その一環で、若者たちが子どもたちに正しい手洗いの方法を伝えています。(コートジボワール)

各地で続けられています。

一刻も早い支援活動の拡大が必要です

新型コロナウイルスの影響は、子供たちに深刻な健康被害や栄養不良をもたらし、いま必要な支援が得られなければ、今後数か月にわたって毎日数千人の子どもが命を落とす可能性があります。一人でも多くの幼い命をこの危機から守り抜くために、みなさまのお力がぜひ必要です。

「新型コロナウイルス緊急募金」にご協力をお願いいたします。

(日本ユニセフ協会HPより)



東大寺の大仏さまへ合唱を奉納

2020年10月18日

世界の子どもたちの平和な暮らしと健やかな未来、そして新型コロナウイルス感染の早期終息を願いました

～奈良県ユニセフ協会設立20周年記念～

県ユニセフ協会は、10月18日(日)、協会設立20周年記念の事業として、東大寺大仏殿において大仏さまへ合唱を奉納し、世界のすべての子どもたちの平和な暮らしと健やかな未来、そして新型コロナウイルス感染の早期終息を願いました。

奉納した合唱曲は『心の鼓動』『ありがとう地球』のほか『秋のメロデー』『ソレアード』の4曲。

『心の鼓動』は、2011年にシリア紛争が始まって6年を迎えるに際して、ユニセフ親善大使ザード・ディラーニ氏によって制作されました。歌の中で、シリアの子どもたちは世界に対し、子ども時代を取り戻したいという当たり前の望みを訴えます。



狭川普文 東大寺別当による読経に続き、和太鼓・篠笛の演奏、「まつぼっくりと音楽の森ファミリー合唱団」による合唱、子どもたちが創作した生命のメッセージとシリアの子どもたちのメッセージの朗読を行い奉納しました。参拝の皆さんも足をとめて合唱に耳を澄ませていました。

なお、同日に予定していました県協会設立20周年記念事業は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため今回の合唱奉納のみ行い、記念の集いや記念誌発行など、その他の予定していた事業は2021年10月17日(予定)に延期されました。

2020年 1月～12月 活動報告

ユニセフ写真展 開催

長谷部誠大使「ロヒンギャ難民キャンプ訪問」

～未来を切り拓くために～

2020年10月27日～11月8日 奈良県図書情報館にて



2020年10月27日～11月8日、奈良県図書情報館においてユニセフ写真展「長谷部誠大使ロヒンギャ難民キャンプ訪問～未来を切り拓くために」を開

催しました(奈良県図書情報館と共催)。

ミャンマー西部に暮らす少数民族ロヒンギャの人々。2017年8月、故郷で起こった武力衝突を逃れた74万人が、国境を越え何日も何週間もかけてたどり着いたのは、食料や水、電気もない野原。同アジアの片隅に、表面的には落ち着きを見せる難民キャンプで「これから自分たちはどこへ向かうのか？」将来に不安を抱えながら、ひしめき合うように生きる大勢のロヒンギャ難民がいます。

長谷部大使の訪問を通じ、日本でも忘れかけているこの世界最大の人道危機への関心を改めて呼びかけ、人々が未来を切り拓いていく支援の輪を 7



#ユニセフ奈良ハンド・イン・ハンド 2020

オンライン募金を呼びかけました

毎年12月に実施していますハンドインハンド募金。

2020年はコロナウィルス感染防止のため、街頭募金は中止となりました。そこで、県ユニセフ協会では「ハンドインハンド奈良2020」のサイトを立ち上げ、20万円を目標にオンライン募金を呼びかけました。

初めての取り組みでしたが、2020年11月と12月の2か月間、SNSも活用して広く支援を呼びかけ、45人から118,000円の

募金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。



#ユニセフ奈良ハンド・イン・ハンド 2020

速くて簡単です！
スマホやパソコンから募金ができます。

広げるため、この写真展を開催しました。ご来場いただいた方から、「ロヒンギャのニュースは以前から気になっていました。こんな取り組みがあったんですね。奪われない“技術”や“経験”を身に付けてもらう支援の在り方、勉強になりました。」などの感想が寄せられました。



ユニセフシネマの集い 2020

映画「風をつかまえた少年」上映会を開催

～僕がどうやって風力発電で未来を手に入れたのか～

ひたむきな姿が学ぶことの大切さを伝えてくれました

2020年11月14日 奈良市中部公民館にて

2020年11月14日、奈良市中部公民館において、映画「風をつかまえた少年」上映会を開催しました。

県ユニセフ協会では、映画を通じて、子どもたちが置かれている状況、成長していく姿、そして彼ら彼女たちがつくり上げていく世界への希望について一緒に考えたいとの思いから、前年に続き今年も「ユニセフシネマの集い」を開催しました。

この映画は、飢餓による貧困のため通学を断念したマラウイの14才の少年が、図書館で一冊の本に出会ったことをきっかけに独学で風力発電を造り上げ、未来を切り拓いた感動の実話です。いまだに祈りで雨を降らせようとする村で、最愛の父でさえ少年の言葉に耳を貸さない。それでも家族を助けたいという彼のまっすぐな思いが、徐々に周りを動かし始める——。ひたむきな姿が学ぶことの大切さを伝えてくれます。



会場は入場人数を制限するとともに換気や消毒を行い、来場者にマスク着用をお願いするなど新型コロナウイルス感染防止策を講じて開催しました。

映画会に参加されていた、奈良の実家へ帰国中のユニセフ職員のアリサさん(米国ニューヨーク勤務)から、ユニセフにおける新型コロナウイルスへの対応や、いつもユニセフを支援してくれているヨーロッパ各国が現在は自国のコロナ対策に追われている状況などを紹介していただきました。

奈良県ユニセフ協会では、今後も「ユニセフシネマの集い」を開催していく予定です。

2020年 1月～12月 活動報告

2020年2月15日～16日

フロバスケットボール B2 リーグ

バンビシャス奈良 VS 青森ワッツ

試合会場「ならでんアリーナ」(鴻ノ池運動公園)にブース出展

2020年2月15日～16日、プロバスケットチーム B2リーグの「バンビシャス奈良 VS 青森ワッツ」の試合が行われました。

バンビシャス奈良は奈良県初のプロスポーツチームとして地域で共有できるプロスポーツ文化の創造、地域の活性化、子どもたちの目標となることなどを理念として活動しています。

奈良県ユニセフ協会では、試合会場の鴻ノ池運動公園「ならでんアリーナ」にユニセフのブースを設け、写真パネル、支援ギフトを展



示して来場の皆さまにユニセフ活動やSDGsへのユニセフの取り組みについて紹介しました。

試合の合間を利用して、多くのファンの皆さんがブースを訪れて熱心に展示物に関心を示

てくれました。また、小鹿をモチーフとしたマスコットキャラクターの「シカッチェ」もユニセフのブースに来て、ファンの皆さんと一緒に熱心にユニセフ活動やSDGsの説明に耳を傾けてくれました。

会場には写真パネル「ようこそチームユニセフへ！ ～スポーツの力を、すべての子どもたちのために～」も展示しました。

スポーツはすべての子どもの成長を促す大きな力を持っています。次代を担う子どもたちがスポーツを楽しみ、スポーツを通して学び成長できる環境の実現を呼びかけました。



ご協力、ありがとうございました！

2020年1月～2020年12月までの間、奈良県ユニセフ協会にお寄せいただいた募金総額は、

¥2,385,372 となりました。(速報値)

皆さまの温かいご支援に
心よりお礼を申し上げます。

※振込用紙の通信欄に「県協会コード K1-290」と
ご記入いただいた分とオンライン募金を含みます



龍谷大学生 3名 2020年 10月～12月

県ユニセフ協会でのインターンシップ

活動体験を通じて「ユニセフ」を学びました

龍谷大学国際学部で学ぶ、国際協力に関心を持つ2回生3名の学生が、2020年10月から12月の間において、インターン生として奈良県ユニセフ協会にて数回の実活動体験をしました。

現場の活動体験を通して、将来の社会を担う若手の人材養成を目的とするインターンシップ。

ユニセフの理念や活動内容についての研修を受けるとともに、県ユニセフ協会の SNS 開設の手伝い、イベント「大仏さまへの合唱奉納」「写真パネル展」「映画上映会」の準備・対応にボランティアとして携わりました。

コロナ禍の影響で、残念ながら恒例の街頭募金が中止になるなど、市民の方々との交流の機会が制限されましたが、勉強会およびユニセフの役割の一端を担っている県ユニセフ協会の広報活動や募金活動などの経験を通じて、「ユニセフ」について学びました。



ボランティア活動日誌

私にとっての「ユニセフ」 金子三樹彦 (ボランティア)

終戦後の昭和24年から15年間、ユニセフから粉ミルクや綿花等の物資を援助されたとき、私は坊主頭の小学5年生。まだ戦後の影を色濃く残す中で、人々は仕事を求め、食料を求め、その日その日を生きがため必死に立ち向かっていた時代。学校給食でのアルミニウム製の食器に入ったミルクは初めて飲んだ乳製品であり、家庭での十分でない食事を補完する美味しく楽しい昼食だった。



現在の乳製品とは大きく隔たりはあるが、当時の食糧難時代には誠に恵まれた少年期といえる。

この栄養価にとんだ粉ミルクによって、体力をはじめ各器官の発育が促進されたことは大きい。当時のユニセフ援助に感謝し、今、ユニセフ活動に携わっている。

出前学習会のご案内

出前学習を行いませんか！

奈良県ユニセフ協会ではスタッフが学校や団体を訪問して学習を行う出前学習（講師派遣）を行っています。

映像や体験などを取り入れ、「今、世界でどんなことが起きているのか」「世界の子どもたちはどんな生活をしているのか」を学びます。（事務所までお問い合わせください。）



水がめ運びを体験

※ DVD 教材の貸し出しも行っています

出前学習の進め方

- ① 出前学習会の打ち合わせ（約1か月前）
日程調整、プログラム、体験学習
- ② 会場・教室の下見（約1週間前）
プロジェクター等の作動・映写確認
- ③ 出前学習会の開催（当日）

編集後記

2020年1月、WHO（世界保健機関）が新型コロナウイルス感染症を確認、瞬く間に世界にパンデミックス。2021年1月初め、感染者は8400万人を、また死亡者は180万人を超える状況にあります。この状況下にあっても、紛争地域や難民収容エリアでの状況は好転しておらず、いつも最初に大きく被害を受ける子どもたちが生死の境を彷徨い、将来への不安を増長させています。

対コロナワクチンは一部の国において接種されはじまりましたが、一日も早いコロナ終焉を祈りたいです。

県ユニセフ協会では、昨年は活動の制約を受けましたが、設立21周年を迎える今年、講演会・写真パネル展・出前学習会のほか、各種イベントや募金活動等の機会を捉え、子どもたちの健やかな成長を目指し、広く皆さまに支援の必要性を訴え、ご協力をお願いしています。

今後とも、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。（M.K.）



賛助会員募集

日本ユニセフ協会の趣旨に賛同してくださる会員を募集しています。

賛助会員とは、日本ユニセフ協会と奈良県ユニセフ協会の運営を、年会費によってご支援いただく方法です。

種類	対象	賛助会費	賛助会員期間
一般賛助会員	個人の方	1口5千円	入会月～1年間
学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口2千円	入会月～1年間
団体賛助会員	団体・法人・企業	1口10万円	入会月～1年間

*一般・学生賛助会員は、個人名でのお申し込みに限ります。

*賛助会費は寄付金控除の対象になります。

*会員期間は入会月から一年毎の更新となります。

*賛助会費は、1口以上何口でもご協力いただけます。

ボランティア募集

奈良県ユニセフ協会では、下記の活動を手伝っていただけるボランティアを募集しています。

学生の方も大歓迎です。

世界の子どもたちの現状、ユニセフやボランティア活動に関心をお持ちの方、私たちと一緒に楽しく活動を始めませんか。

お気軽に事務所までお問い合わせください。

- ◆ 募金活動
- ◆ イベント参加
- ◆ ユニセフ学習会講師
- ◆ 機関紙発行
- ◆ 事務所でのお手伝い



※ 鹿のイラストはすべて、ボランティア大西好美さんの作品です。



奈良県ユニセフ協会

〒630-8253

奈良県奈良市内侍原町6番地の1 奈良県林業会館2階

TEL：0742-25-3005 / FAX：0742-25-3008

E-mail：unicef-n@m4.kcn.ne.jp

ホームページ：http://www.unicef-nara.jp/

※事務所開所日：月・火・水・木 11:00～16:00

募金して頂ける方、ユニセフDVD等の資料をご入用の方、ユニセフ支援ギフトにご協力いただける方など、お気軽にお越しください。

近鉄奈良駅から歩いて5分。お気軽にお越しください。

